

中部地区 竜爪山系コース案内 1 日目

竜爪山系は、安倍川の東岸を北から十枚山、真富士山、竜爪山、賤機山へと南北に連なる竜爪層群に属し、主に火山性の地質からなる。山全体の植物群落としては、常緑広葉樹が多く、ヤブツバキ・ヒサカキ・アオキ・コアジサイ等の木本、ホタルブクロ・ヤブレガサ・クサイチゴ等の草本、多くのシダ類など豊かな植生が見られる。

開会式・ペーパーテストを行った竜爪中学校から 800m ほど北東に位置する^{ゆきひら}雪平公園がスタート地点となる。舗装された農道を主に茶畑の間を折り返しながら、3km ほど登っていく。道端には、ヒサカキ・イヌビワ・シロダモを始め、ウラジロ・コシダなどのシダ類、アケビ、テイカカズラなどツル性の草木が見られる。大きく 3 回折り返した後、南に向かってしばらく農道を行くと、やや下って折り返しの手前を歩いた先に、梶原山公園の駐車場がある。まっすぐ上ると、公園の南端にでる。稜線を北へ折り返し、登山道となる。梶原山公園は、鎌倉幕府の武将梶原景時親子が追っ手に迫られて自害した地とされ石碑が建っているが、今では旧静岡市と旧清水市の両方を望む夜景スポットとして有名である。

ほぼ稜線に沿って 15 分ほど北上すると、かつて駿河湾を航行する船の目印となった大きな松の木があったことから名づけられた一本松公園（^{ほかけやま}帆掛山304.2m）に着く。屋根のある休憩所とベンチが整備されており、「しあわせの鐘」を鳴らすハイカーも多い。

ここから茶畑の間を下り、高圧線鉄塔を連続して潜り抜けた後、稜線上の鞍部から樹林帯へ上る。スギ・ヒノキの間を、うねうねとアップダウンを繰り返し、最後に急な傾斜を下ると、農道の折り返し地点に駐車スペースがあり、奥に大きな石碑が建っているところが柏尾峠である。樹林帯では、ヤブツバキ・ヒサカキが散見でき、ヤブレガサやハナミョウガなど日陰に特有の植物もみられる。また、駐車スペースのまわりには、テイカカズラが花をつけ、クリも植えられている。

石碑の前を、わかりにくい、左手に折り返して下る道があり、ここを降りていくと、竜爪街道に出る。途中苔が生え、滑りやすいところや大雨などの影響でえぐれているところがあるので注意が必要である。竜爪街道に出たら左折し、2.3km ほど行くと、静岡市立西奈小学校が見える。校門へ入ったところがゴールとなる。

中部地区 竜爪山系コース案内 2 日目

コース 2 日目は幕営地の西奈小学校からバスで平山公園まで移動したのち、平山公園をスタート地点として、行動を開始する。則沢林道末端までは車道を歩くことになるため、交通には細心の注意を払い、早朝とはいえ事故等に合わないよう気をつけてほしい。平山公園を出発後すぐに則沢橋を渡り、しばらく道沿いに進み公衆トイレがある則沢公園の先の分岐を右にとり、さらに進むと前方に 10m ほどの高さの堰堤が見えてくる。堰堤の右側を登る沢沿いの登山道があるが、大会のコースは、堰堤の手前のヘアピンカーブを行く。途中ヤブレガサの群生している場所もみられるが、落石には注意が必要である。この辺りはニホンカモシカの生息地で、時折舗装路上を歩いている姿を見かけることもある。全体的には勾配の急な登りであるが、やがてやや平らな広い地形となる。道白平である。右手にある御堂が道白堂である。16 世紀半ば数々の言い伝えを残している道白禪師が修行し、説法したところとされている。御堂のまえにはオオカメノキが枝葉を広げている。さらにしばらく進むと林道末端に達する。

林道末端からは、左手に橋を渡り登っていく登山道があるが、途中崩れやすい沢があるため、現在は真つすぐ登るコースをとる。沢の右側を登っていくと正面にかなりの急登が現れ、登り切ったところを左手にとると、文珠岳山頂への直登ルートとなる。ルート上はスギ・ヒノキの人工林であるが、ミツマタ・ミヤマシキミ・コアジサイ・ムサシアブミなどが自生している。寒さの厳しい早朝には、珍しいシモバシラが氷の花を咲かせているのも見られる。標高 850m 付近にやや緩やかなところがあるが、全体は急傾斜で一気に数百メートルの高度を稼ぐ。山頂近くの傾斜が緩んだところでは、ヒメシャラやアセビもみられる。藪を抜けると、竜爪山の一等三角点（1040.84m）のある文珠岳山頂である。ここからは、西に賤機山の稜線から御前崎、東に清水港から伊豆半島、富士山、北に南アルプス南部の山々を望むことができる。

文珠岳山頂を過ぎ鞍部まで下り登り返すと双耳峰のもう一方薬師岳（1051m）の山頂である。薬師岳への登りは、何本ものルートがついているが、どのコースを取ってもよいことになっている。スギに囲まれて見通しのきかない山頂を過ぎてしばらく行き、分岐を右にとると穂積神社への下りとなる。長い年月の間に尾根がやせてきており、直登ルートは鉄の階段がついているが、大会コースは階段の右側のジグザグルートをとる。下りの傾斜が緩んでくると、太いスギの木が何本も聳えているところに社を構える、穂積神社である。約 1300 年前空海が修行の際に訪れたとの言い伝えもあるが、江戸期までは神仏集合の竜爪権現として、また明治以降は神道の穂積神社として多くの人々の参拝の対象となってきた。とくに、弓・弾除けの神様として明治から太平洋戦争の時期にかけ、多くの人々が詣でたとのことである。平山から登ってくるルートには鳥居と石の道標の設けられた参道（旧道）がつけられている。神社付近にはシャガ・ドクダミ・マムシグサなどが多く自生している。

この穂積神社が計時・読図審査のゴールである。ただし、ここから、旧道をとおり、茶畑を三本桜、平山へと下り、松尾橋を渡って北沼上小学校の最終ゴールに到達するまでが第 2 日目のコースなので、転倒や交通に気を付け、無事故で規制時間内に到着するようにチームで行動してほしい。